



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763
http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/

トピックス

平成22年度 近畿中国森林管理局重点取組

近畿中国森林管理局は、民有林の関係者との一層の連携を図りつつ、地球温暖化防止や生物多様性の保全をはじめとする国民のニーズに応えた多様で活力ある森林の整備や木材の安定供給に積極的に取り組みます。

また、地域からの信頼、国民の幅広い理解と支援を得よう努め、開かれた「国民の森林」の実現に向けて局・署等が一体となって取り組みます。

1 計画的な木材供給の推進

京都議定書の森林吸収量目標の着実な達成に向けて、間伐をはじめとする森林整備を積極的に推進します。また、これに伴い伐採される間伐材等について、システム販売、委託販売を通じた安定供給と利用拡大を推進します。

○地球温暖化防止対策の推進・間伐等の重点的な推進



列状間伐後の状況

列状間伐後の林内

京都議定書の第1約束期間（平成20年～平成24年）における森林吸収量目標である1,300万炭素トンの確実な達成に向けて、間伐をはじめとする森林整備を積極的に推進します。

平成22年度は、約8,400haの間伐を実施します。

○安定供給のためのシステム販売の推進

間伐材等の安定供給と利用拡大を図るため、民有林の施策も踏まえつつ、企画競争により選定した製材工場等に対し安定的に販売する「システム販売」を推進します。

○素材等の販売委託による有利販売

木材市場等への委託販売材については、市況動向を把握し、特産樹種等の高付加価値材について、より高値となるよう効果的な販売に努めます。



委託販売の状況（競り売りの様子）



木材市場にストックされたスギ・ヒノキ丸太

2 森林施業の効率化・共通化等の取組

民有林と連携して適切な森林整備と森林資源の有効活用を促進するため、地方公共団体等との森林整備協定を締結し、森林共同施業団地の設定による民・国一体的な路網整備等を積極的に推進します。

また、歴史・文化的景観に配慮した地域における取組や木の文化継承等に貢献するための取組に努めます。

○民有林と連携した森林共同施業団地の設定

国有林と隣接する民有林の所有者が協定を結び、民有林と国有林が連携して森林共同施業団地を設定し、路網の整備や高性能林業機械を活用して効率的な森林整備を実施します。



兵庫県、森林総合研究所森林農地整備センター近畿北陸整備局、近畿中国森林管理局の3者による協定締結調印

○低コスト路網生産システムによる森林整備

平成20年度に策定した「低コスト路網生産システム導入指針」に基づき、列状間伐や路網と高性能林業機械を組み合わせた効率的な間伐材の生産の取組の普及・定着を進めます。



各署の職員、各府県、林業事業者等の関係者を参集した現地検討会の様子

○歴史を未来へつなぐ森林づくり

世界文化遺産の所在する京都、奈良、紀伊山地、宮島の国有林において、「世界文化遺産貢献の森林」を設定しています。これらの森林において、木造文化財等の修復に必要な資材（^{ひわた}檜皮など）の供給、木造文化財等との一体となった景観の保全に努めます。

主要樹種であるアカマツやヤマザクラが減少するなど往時の姿が大きく変化しつつある嵐山国有林について、H21年度に地元関係者、専門家も参加して「嵐山国有林の今後の取扱い方針」を作成しました。今後も地元関係者及び専門家の協力を得つつ、嵐山国有林の適切な管理・保全を実施します。



渡月橋と嵐山国有林



ヒノキの皮を剥く職人

3 林業技術の普及・啓発、林業事業体の育成

国有林のフィールドを活かし、民有林と連携した技術開発に取り組むとともに、低コストな森林整備等の検討会等に率先して取り組みます。

また、林業の担い手を確保するため、事業の安定的発注に努めるとともに、研修に必要なフィールドを提供します。

○低コスト造林への取組

セラミック苗の植栽により作業の省力化に取り組むとともに、民有林の先導的役割を果たすため、民有林関係者とともに勉強会を実施します。



セラミック苗

○関係機関と連携した研究・調査、検討会の実施

低コスト造林や低コスト路網生産システムについて、国有林のフィールドを活用し、民有林と協力した研修会・検討会等を通じ、地域における技術者の育成を図ります。

○天然力の活用等による針広混交林化の推進

自然的・地理的条件等を考慮しつつ、人工林を針広混交林へ誘導するため、人工林内の広葉樹の天然生稚樹の発生・生育メカニズムの調査・解析に取り組みます。

○林業の担い手確保への対応

林業労働力については、高齢化の急速な進行と後継者不足が問題となっています。このような中、事業の安定的な発注に努め、山村地域の活性化を図るとともに、国有林を緑の担い手対策事業などの研修フィールドとして提供します。



緑の雇用担い手対策

4 安全・安心への取組

近年の局地的な豪雨の頻発や地震による大規模な山地災害の発生を踏まえ、地域と連携した減災対策など「犠牲者ゼロ」に向けた効果的・効率的な治山対策を推進し、地域の安全・安心の確保を図ります。

○地域と連携した整備の推進

崩壊、落石などによる山地災害のおそれがある地域において、治山施設の設置とあわせ地域住民の山地災害に対する意識を高めるよう取り組みます。京都嵐山国有林では、急峻な山腹に転石等が見られ、観光客等への落石等のおそれがあることから、地域からの意見をとりまとめて、平成22年度から落石防止等の対策に取り組みます。

近接した国有林・民有林について、森林管理局と府県が連携して治山対策を行う「特定流域総合治山事業」を実施します。



嵐山国有林内における落石防止等の検討



地元住民と治山工事現場を見学する様子

○間伐材等木材利用の推進

森林土木事業の実施に当たっては、土木構造物の資材や型枠等に間伐材などを利用した工法を適用するなど、木材利用を推進します。



間伐材を利用した山腹工



間伐材を利用した谷止工

5 生物多様性保全に配慮した取組の推進

原生的な天然生林や貴重な野生動植物が生息・生育する森林について適切に保全・管理を図るとともに、人工林において間伐、複層林化、針広混交林化による多様で健全な森林の整備・保全に努めます。

また、野生鳥獣の保護管理と森林への被害対策を一体的かつ効率的に進めます。

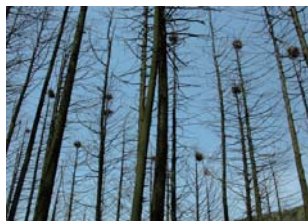
○野生鳥獣との共生を目指した森林づくり「緑の回廊」

保護林を連結し、野生動植物の生息・生育地の拡大と相互交流を可能とする「緑の回廊」は、白山山系、

越美山地、東中国山地に設定しています。これらの「緑の回廊」において、動植物の観察会やモニタリング調査等を実施するとともに、東中国山地において、ワークショップ等を開催し、民・国連携による共生の森づくりを進めます。

○野生鳥獣による被害森林の保護・再生事業の推進

ニホンジカの増加などにより、森林の衰退が進行している大台ヶ原地域の大杉谷国有林において、関係者の連携により、森林の再生及び保全のための取組を実施します。また、カワウによる被害が拡大している琵琶湖岸の伊崎国有林の再生を推進します。



カワウの糞等により木が枯死（先端：営巣）



大台ヶ原のシカによる被害

○グリーンサポートスタッフによる巡視等

来訪者が増加・集中する世界遺産周辺や百名山等の植生荒廃等を防止するため、グリーンサポートスタッフによる巡視や来訪者への普及・啓発活動を実施します。

○オオクワガタの棲める森づくり

広葉樹の育成や菊炭づくり体験等を通じ、多様な豊かな里山の再生と生物多様性の向上を目指す「箕面体験学習の森」において、かつての里山林を整備するため、ヒノキ・スギ林からコナラなどの落葉広葉樹への転換により、「オオクワガタの棲める森づくり」を目指します。



どんぐりを育てる小学生



植樹するための下準備

6 上下流の連携強化のための下流住民等に対する情報提供、林業体験活動

森林づくりに関心を寄せる多くの市民や企業などが気軽に活動に参加できるよう多様な取組を推進するとともに、未来を担う子ども達が、森林・林業に関する理解を深め、自らの生きる力を育むことにもつながる森林環境教育の取組を進めます。

また、地域や市民団体との共催によるふれあいイベントの開催やNPOや企業等による森づくり活動の支援に取り組みます。

○森林ふれあいイベントの取組

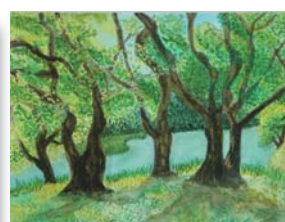
「国民の森林」としての管理経営に資することを目的として実施するイベントについて、幅広い国民との連携強化を図る「ふれあいイベント」となるよう努めます。

（主な実施予定イベント）

・水都おおさか森林の市 2010



・森と木の絵画コンクール



・グループ対抗里山デジカメ選手権



○「森林環境教育プログラム」の普及

森林環境教育プログラムを活用し、教育機関やNPOなど多様な主体と連携しつつ森林環境教育を推進します。

○森林ボランティア活動の支援

森林ボランティアの活動フィールドとなる「ふれあいの森」の整備を進めるとともに、森林ボランティアリーダー養成スクールのフォローアップ等により、森づくりに関わるNPO等の活動を支援します。

○「法人の森林」を活用したCSR活動の支援

「法人の森林」の設定や企業とNPOとの協働による森林づくりなど、国有林のフィールド提供を通じ、企業の森林づくり（CSR活動）への参加を積極的に支援します。



森林づくりに参加した社員及び家族

地域ニュース

心新たにさわやかな顔ぶれ12名入庁

【局】4月8日、近畿中国森林管理局大会議室において、平成22年度の新規採用者12名の入庁式を行いました。新規採用者は、4月1日から管内の各署等に配属されていますが、新規採用者研修に臨むために局へ集まりました。

入庁式では、本村局長から「国土の70%は森林であり、森林は地球温暖化対策に寄与し、大変クローズアップされています。皆様方も職場認識を自覚し頑張ってください。具体的な仕事については、これからの研修等で学びますが、余り焦ることなく勉強し、社会人としてルール・マナーをしっかりと身につけて下さい」と、訓示がされました。

期待と不安を胸に・・・
本村局長の訓示を熱心に耳を傾ける新規採用者12名



本村局長ほか局幹部を
囲んでの記念撮影

局長訓示の後、新規採用者を代表して三重森林管理署の野田晋一さんが「日本の森林を取り巻く情勢は、大変厳しい状況であります。これまで先輩方が積み上げてこられた成果を継承・発展しつつ、また国民の声にも謙虚に耳を傾けながら、新しい取組にも果敢に挑戦していかなければならない」と宣誓しました。

新規採用者12名は研修終了後、それぞれの職場で活躍することになります。

「都島中学校」と「OAPテナント会」との三者協働による緑の募金活動

【局】造幣局「桜の通り抜け」の最終日を明日にひかえた、4月19日(月)JR環状線桜ノ宮駅前において、近畿中国森林管理局と大阪市立都島中学校生徒・OAPテナント会の三者協働による「緑の募金街頭キャンペーン」を実施しました。

近年高まりつつある国民の森林への関心と理解をさらに深め、森林づくりへの参加に結びつける取り組みの一つとして桜を楽しんで帰る多くの市民の方々に呼びかけを行いました。



通行人の方々に募金の趣旨を訴えてお願いする生徒たち！



募金に御協力を頂いた皆様有り難うございました

都島中学校のボランティア部や生徒会の生徒たちは、ハッピーたすき姿で募金箱を持ち、道行く人々に大きな声で募金を呼びかけ「がんばってください」「応援してるよ」などのことばと募金を沢山いただきました。

集めた募金は、日本の森林の手入れや砂漠化を食い止める等、世界の森林を守る様々な活動に使われます。

関連ホームページ

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

お知らせ

平成22年度インターンシップの実施について

1. 目的

近畿中国森林管理局の実際の行政実務に接することにより、学生の学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらうことを目的としています。

2. 対象者

大学（短期大学含む）、大学院その他の教育研修施設の学生のうち、学生が所属する大学から推薦された学生の方。

3. 受入部署・期間等

- ・森林技術センター、和歌山森林管理署
- ・7月～8月下旬のうち、約1週間受け入れます。
- ・実習時間は、原則、午前8時30分～

午後5時00分まで

なお、詳細につきましては、下記アドレスよりご覧下さい。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/kouhou/intern100428.html>